

【資料1】平成29年度 こども園に関する課題整理の概要について

1. 第1回PT(プロジェクトチーム)会議の概要(H29.6.5開催)

【こども園開園後、2園の現状把握】

(1)教育保育内容の提供内容について

- *デイリープログラムについて
登園から14時までの時間の流れを確認。★給食時間及び午睡、降園時間に両園違いあり。
- *保育のリーダーについて
複数配置のため週交代で担当。
- *週案の作成及び様式について
週案会議、クラス、学年で話し合っ決めて、今まで使っていたものを使用、今後、改善。
- *午睡について
別室利用、1号児の降園時と重ならないよう工夫し実施。午睡の時間帯は両園に違いがある。
- *幼稚園型預かり保育の実施について(14時～17時まで実施)
14時～は一時預かり室での保育。15時～は2号児と一緒におやつを食べ、一緒に過ごす。
- *教育保育日誌について
当日の保育内容を伝えるため、クラス及び玄関に掲示。

(2)地域子育て支援事業について

- *未就園の地域子育て支援事業を実施 *幼稚園型園庭開放は小阪のみ実施。

(3)地域連携について

- *小中連携、地域との連携等は幼稚園で取り組んでいた内容を基本的に実施。

(4)給食について

- *各園の給食の内容比較(写真参照:大きな違いはなし。)
- *4,5歳の給食提供時間が12時より早い(縄手南)との指摘 → 園の状況を確認し、下記のとおり改善
こども園では0歳児から5歳児までが在園しており、園児の年齢や状況等により提供時間が異なり、0歳から順次提供し、概ね11時半から12時前までには5歳児への提供を開始しております。

2. 第2回PT(プロジェクトチーム)会議の概要(H29.12.20開催)

【開園半年を経て、教育保育現場の声を中心とした現状把握】

(1)3～5歳児クラスの運営について(教育・保育現場への聞き取り内容の報告)

- *教育保育内容の調整工夫
 - *午後からの保育の工夫等
 - *教頭の役割分担等
- 右記に詳細記載

(2)年間行事の取り組みと今後の予定

- *春から実施した行事の内容等の報告と今後の予定等の確認(別紙行事比較参照)
- *保護者参観、オープンデー等の取り組み
(保護者の状況)
1号児の保護者は子どもの様子を見る機会を幼稚園のときと同様にしてほしい。
2,3号児の保護者は就労の関係で平日参観等は日程調整が必要。
(29年度の対応)
2,3号児の保護者も参加しやすいようにオープンデーを実施。(子どもの様子を見る機会の設定)
(課題)
日程については2,3号児の保護者に配慮し、スケジュールをできるだけ早く通知する等の工夫が必要。
- *運動会の取り組み(隣接小学校の運動場を使用)
<縄手南> 近隣小学校園の運動会との日程調整(実施日の重複を避ける)が必要となり、土曜日実施及び午前中のみ使用という制約があった。
<小 阪> クラス数等園規模が大きくなったが、幼保両方の内容を取り入れたことにより、これまでの午前中の終了とはいわず、給食を提供し午後2時まで実施。

3. 教育・保育現場の声(H29.11)

【縄手南、小阪こども園の3歳～5歳児クラス担当保育教諭への聞き取り】

項目	内容
*教育保育内容に関する担任間の調整について ・カリキュラムの組み立て ・リーダーの回し方	<p>【カリキュラムの組み立て・良い面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人の担任同士で話し合っ週案を作成。園庭やホールの使用調整も同時に行っている。 ・お互いのこれまでのやり方を伝え、子どものことを中心に据えて教育・保育内容を考えている。 ・お互いの良いところは取り入れてやっっていこうと心がけている。 ・お互いの保育の中で今まで知らなかったことを学べることも多く新鮮に感じ、教育保育にあたっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの経験ややり方(幼保で)が違うので、当初理解しあうのが難しく調整に時間がかかった。 ・カリキュラムの内容について開園までに継続してPT会議で話し合いは行っったが、保育教諭、園児等の事前交流が必要であった。 ・複数担任で2人の知っていることを出し合える良さもあるが、相談しないといけなないので時間が足りない。 ・リーダーの交代は1週間。もう少し長いほうが保育の積み上げができるのではないかと。
*教育保育内容の調整について(4,5歳児2クラス間) ・日々の取り組み ・行事の取り組み	<p>【日々及び行事の取り組み・良い面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスや年齢で蜜に話し合いを行っている。 ・2クラスで違う内容の取り組みもあるが、教材を同じにしたり、教育・保育のねらい・レベルは揃えるようにしている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保双方の行事を取り入れたので行事数が増え、どのように精査するかは今後の課題。 ・行事の取り組み等各年齢の担任で話すことが増え、良いものをめざしているが、内容等調整に時間がかかる。 ・行事等の取り組みについて、園全体として一致させるのに時間がかかった。
*1号児2号児混合のクラス編成について ・子どもの状況や変化 ・工夫していること	<p>【子どもの状況や変化・良い面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育経験のある子と初めて集団に入る子では春の頃は差が大きく、1号児は泣いてばかりの状況。半年経って1,2号児入り混じって良好な関係もできつつある。2号児のダイナミックな遊びに1号児が魅力を感じ興味をもったり、コミュニケーションをとってくれるので集団に慣れるのも早かったと感じる。 ・夏休み明け、1,2号児の状況に大きな差は特に感じなかつた。 <p>【工夫していること・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午睡に入る時、2号児については1号児のお迎えの保護者と出会わないように配慮している。 ・午後の保育について、午睡中は預かり児は別室での保育。15時からクラスにもどり、おやつと一緒に食べ降園まで同じクラスで過ごす。 ・午後(午睡)から3～5歳児を合同することで、保育教諭は教材準備の時間を確保することができた。 ・保護者の就労の有無等に配慮し、懇談会を2部制にしたため保護者同士の交流が図りにくい面があった。

【縄手南、小阪こども園の教頭への聞き取り】

項目	縄手南	小阪
教頭の分担について(2名体制)	・保育の指導助言、行事の進行、配布物の作成、会計関係等基本的な分担は決め、年度途中で一部交代しながら相互理解に努めた。	同左
園運営、教育保育の指導助言等	・基本は保育のサポートをしなが指導助言を行う予定であったが、業務量の多さから、十分な指導助言にあたれないという時間的な制約があった。	・管理職3人が園運営については共有。 ・前半は乳児幼児分かれ指導助言を行っていたが後半は交代しながら共通理解に努めた。
教育保育の調整(行事等含む)	・ひとつひとつ全保育教諭で話し決定していたので時間はかかった。考え方・内容等を一致させていくのに苦労の連続だった。	・保育所でも幼稚園でもなく、こども園というスタンスで、基本的には両方の行事を取り入れる中で負担にならない方法を見つけていった。 ・子どもにとって「何を大事にしたいか」を一致させることが大切で、初めての取り組みでも内容としては幼保で共通しているものもあった。
教育、地域との連携	・学校との交流等の取り組みが充実している。	・隣に小学校があり身近に交流できることは利点。

4. 1年間の園運営を振り返って(園長に対する聞き取り)H30.3

項目	縄手南	小阪
地域及び小中学校との連携に関し、留意したこと、今後の改善点等	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな年齢の子どもが関わることで刺激になっている。 今年度は、幼稚園でこれまで行ってきた取り組みをもとに実施したが、相互に連携し合うというより、小中学校にリードしてもらって交流することが多かった。そのため、今年度取り組み中で感じた「交流を通して育まれた力」を、職員間で再確認すると共に、交流の大切さや交流を実施する上でのねらいを職員間で共通認識しながら、取り組みを進めていきたいと考えている。 縄南校区校外指導協議会では、園区が広がったことで、取り組みへの参加や呼びかけ等、配慮すべき点も多くあった。PTA、保護者会の役員、園とが連携し、参加や協力の仕方の工夫をしていく必要があると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> こども園になってからも幼稚園と同様に参加。すべての連携会議等に参加は大変だったが、こども園の認知度をあげ、こども園に対する理解を得るためには今後も継続して参加していくことが大事。今年度の活動の中で地域の方の認知度が上がった。 市長部局の管轄では、学校教育との連携があまりなかったが、幼保連携型となって、多くの機関との連携が増えこども園の必要性を知ってもらい、保育・教育内容の理解をより多くの市民の方々にしてもらうことができた。 保育所出身の保育教諭も、小・中学校との交流、連携は保育所も必要であると改めて認識することができたという意見を聴いている。1・2・3号とも、東大阪市の公立の学校に進学する園児がほとんど出る中、地域は広範囲であるが、学校園、地域との連携は必須であると考え。但し、様々な行事や、研修、連携の仕方は、幼稚園の時と同じでなく、多くの機関と詳細な話し合いをもち工夫しながら、参加出来るよう努力し続けることが大切である。 今年度も、近隣の私立のこども園。保育園との連携を行ったが、今年度以降も、活動と理解の場を広げていきたいと考えている。
研修についての参加実績、今後の改善点等	<ul style="list-style-type: none"> 伝達研修は、職員会議時等を利用し、月1回をペースに行うよう心がけた。 出来る限り最大数で参加できるよう体制を工夫したが、中には参加できない研修もあった。 幼保両方の部会への参加は難しいため、研修の資料を回覧するなどし、学びを広められるよう心がけた。また、部会には、今年は複数人数各部会に登録し、誰かが参加するという方法をとった。 幼保で交流できるように、幼稚園より出向の職員が保育所の部会に、保育所出身の職員が幼稚園での研究会に参加できる機会を数回持った。 全職員で共に学びを深めていくため、時間や持ち方を工夫しながら、園内研修を積極的に取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 市長部局の悉皆研修はほぼ参加、教育委員会の研修は参加できないことも多かった。 園内研修は時間の工夫をしながら数回実施でき効果があった。 研修の時間帯の工夫が必要。⇒部会は時間変更してもらい参加しやすくなった。・教育と保育の合同研修等共通理解を深める工夫が必要。保育で大切にしたいことは、幼稚園も保育所も共有出来る事が多い中、保育室と教育委員会で連携して効果的な研修計画を行ってほしい。 研修はとも必要であることは、全教職員が理解している。今年度も工夫をしながらであるが、実施していきたい。2年目になって、互いに学び合いたいことや、得意な分野、苦手な分野が自園においては明確になってきている。今後は課題解決につながる実践的な研修をしていくつもりである。また、他の保育所私立園との合同研修も計画中である。
保護者対応の中での配慮や改善点	<ul style="list-style-type: none"> オープンデーや行事等取り組んできたが、日程の提示が遅かったこともあり、2号児の保護者の参加は少なかった。2号児の保護者も参観したいという思いはある。来年度は今年度の反省を踏まえ、年間計画を立てて保護者へ周知することが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 就労家庭も含め保護者への連絡通知文等早めに出したり、繰り返し発信する等丁寧な対応、情報提供をした。また、保護者への連絡は、(園内掲示・通知分・スマイルネット・担任からの講話のあらゆる手段を使い周知徹底した) ※年間の大きな行事は平成29年度は5月の園だよりで周知。平成30年度は入園式で、年間行事予定を周知した。 ・参観⇒2,3号児の保護者も参加しやすいうちにオープンデーを増やす等の工夫が必要。保育士の負担を減らす時間帯や内容の工夫が必要。日曜参観の取り組みは保護者同士の交流にもつながった。PTA/保護者会ともに仲良く共存できるように丁寧に取り組み、行事は全て園主催とし両団体は協賛とした。
預かり保育(長期休み中)について	預かり支援員の配置(予算拡充)が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 預かり支援員の配置(予算拡充)が必要。 預かり保育の利用の仕方や、おやつ等の希望が増えてきた。詳細なマニュアルの見直しが必要であると思う。※災害時の時等も含めて ・夏休みより冬季春休み等の体制が難しい。H30年度のように人員マイナスの中での預かり保育は大変困難である。
園児に対し配慮した点	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムの違いから、子ども同士のつながりに初めは偏りがあったが、日々の保育活動を通して、次第につながりができていった。 ・参観の際には、保護者が参観に来られない子どもが寂しくならないように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1号児の登園・降園時間の時が、一番職員の体制が不足し園児が混乱した為、その時間帯のみのシフトを作り対応した。 ・全ての事において、幼稚園・保育所ということではなく、臨機応変に目の前のこどもにとって何が必要なかを基準に対応できるようにした。 ・例:スタッキングベッドについて 慣れるまでは布団の使用も可能にする等保護者に選択の幅を持たせた。
教職員に対し配慮した点	<ul style="list-style-type: none"> これまで保育所、幼稚園で大切にしてきた取り組みやその取り組みでのねらいなど思いや考えを出し合い、互いに理解し合えるよう、全体で話し合うことを大切にしてきたが、折り合いをつけていくのが難しかった。 ・当初は一人ひとりの意見を聞きながら会議をすすめていたが、時間もかかるため、学年で事前に意見をまとめて会議に出すよう変えていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等やってきたことは幼保で違うところはあるが、子どもに対しての願いは同じという姿勢で一致させてきた。一緒に保育する中で午睡の必要性や散歩も大切な活動ということが理解できた。 ・保育所からの保育士は幼児の担任が不安という意見が出た。幼保の担任でうまくやれたという事例もでているので、そこを園全体に広げながらお互いの良いところをどう残していくかが課題。 ・職員に何か提示をする時や話し合う時には、まずは両教頭と3人で話し合い全教職員で取り組めるように管理職が十分に話し、幼保の視点が共に生かされるよう園運営を計画的に行った。
次年度にむけて	<ul style="list-style-type: none"> こども園になったことで、これまでの保育所や幼稚園とは変わる部分もあったが、保護者へ丁寧に説明する場が少なく保護者へ個々に対応することが多かった。次年度は園としての考え方をまとめ、丁寧に説明することが必要。 ・事務の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・自園においては、幼保一緒になって良いところ多くあり、互いに学び合える事が出来た。幼保ともに共通する課題があり、こどもを取り巻く時代の変革の中で必要とされる施設が「こども園」なのではないかと思う。簡単な課題でないがこどもの為に頑張っていきたい。 ・お互い(幼保で)大事にしていることの交流を現場の教諭・保育士で交流することが大切。保育観の一致。 ・徴収事務の負担軽減。(事務員の採用)が必要。

5. こども園移行後1年を経過した総括、次年度に向けた課題等について
(子どもすこやか部保育室)

<p>公立の就学前教育・保育施設再編整備計画に基づき、平成29年度に本市ではじめて公立保育所及び幼稚園を集約した幼保連携型認定こども園を2園(縄手南、小阪)整備した。</p> <p>施設整備面での特徴は、これまでの既存の幼稚園舎の一部を活用しながら、新設の園舎を増設するもので、園児、保育教諭及び給食の配膳等の動線に配慮し建設を行ったものである。</p> <p>ただし、敷地面積には制約があり、園児数の増加及び園舎の増設のため、幼稚園当時の園庭面積より必然的に縮小せざるを得ず、これまで自園で行っていた運動会の実施ができない等園運営にも変化が生じることとなった。</p> <p>また、保育室の数にも余裕がないため、実際の園運営を行う際には限られたスペースを工夫しながら教育・保育にあたってもらった状況となっている。</p> <p>一方、実際の園運営に関しては、3歳から5歳の教育・保育については、幼稚園教諭及び保育士を1名ずつ各クラスに配置し、お互いが子どものことを中心に考え、これまでの経験を生かした教育・保育内容を取り入れながら質の高いものを提供できたと考えている。</p> <p>ただし、開園した後に決定する事項も数多くあり、園長等現場の教職員には多大な負担をかけた事実もある。第1回PT会議の内容にあるデイリープログラム、週案の作成等がその例として挙げられる。</p> <p>また、教育・保育内容についても、教育・保育現場の声に記載のとおり、特に事前の保育教諭の交流ができなかったため、教育・保育内容のすり合わせに時間がかかる、幼保のこれまでの行事を概ね取り入れたことにより行事数が多くなったことも課題である。</p> <p>また、保護者対応に関し、縄手南こども園では、行事予定等の情報提供の遅れや要望に対し迅速な対応ができず、在園児の保護者に不満や不信感を抱かせた事例もあり、次年度ではこの点については十分配慮し対応できるよう各園との連携を図っていく予定である。</p> <p>そのほか検討していくべき課題(下記参照)は山積しており、継続した園運営の内容確認の場、課題事項の検討の場が必要と考える。</p> <p>今後は、平成31年度に(仮称)大蓮、平成32年度に(仮称)孔舎衛こども園が開園予定となっている中、先行して開園した2園の現場の声を大切にしながら、改善できる面は早急に対応していく予定である。</p> <p>最後に、子ども子育て会議、幼保連携検討部会をはじめ、関係部局からの意見、指摘等を参考にしながら、より良い園運営ができるよう引き続き努めていきたい。</p>
--

(参考)平成30年度課題一覧

- ・PTAと保護者会のあり方について(並存による園との関わり等課題整理)
- ・研修の参加について
- ・1号児の支援のいる子に対する加配について
- ・徴収金の実績の検証と今後の使い方について

(次年度に向けて)

- ・(仮称)大蓮及び孔舎衛こども園開園に向けた課題整理
 - ①各こども園年間・期別・月別カリキュラム・週案・日案の作成
 - ②年間行事日程案の作成
 - ③園児、保育士及び幼稚園教諭、保護者の交流について
 - ④教育保育内容・保育観のすり合わせ
 - ⑤小阪・縄手南こども園との交流(保育現場の見学、意見交換等)
 - ⑥施設内外の動線の確認(基本計画図面参照)
 - ⑦小阪・縄手南こども園長との意見交換